様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ５ 月 ２８ 日現在

機関番号：１４５０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４５００７４０

研究課題名（和文）マスターズスポーツ大会の開催効果と運営マネジメントに関する国際比較研究

研究課題名（英文）A Cross-National Study on the Benefits and Managements of Masters Sport Events

研究代表者
長ヶ原　誠（Chogahara, Makoto）

神戸大学・人間発達環境学研究科・教授

研究者番号：００２２７３４９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,700,000円

研究成果の概要（和文）：これまでのマスターズスポーツ大会は各国において様々な恩恵を主催地にもたらしたことが明らかとなった。生き甲斐やアクティブエイジング等の個人レベルの「人生」の活性化を中心に、対人交流、地域交流、国際交流、マスターズスポーツに特徴的な世代間交流を含めたコミュニケーションと相互理解の活性化、また、観光・スポーツ産業に代表される経済活性化が期待できる。また、大会の開催が起爆剤となり、生涯スポーツやスポーツツーリズムの文化振興を加速化させる。さらには躍動する中高年アスリートの姿が、これまでのネガティブな加齢観や高齢者像のステレオタイプを払拭し、明るく活力に満ちた人生観を育む教育的・啓発的効果も期待できる。

研究成果の概要（英文）：The masters sport events have offered various benefits to the host cities in the world. The benefits are related to the revitalization of “life” at the individual level of the active aging people, people-to-people exchanges, regional and international exchanges as well as the inter-generational exchanges, mutual understanding, economic revitalization through tourism/sports industries. They serve as a trigger for accelerating the cultural promotion of life-long sports and tourism. The dynamic senior athletes will also rid of the prejudice about the negative images of aging and older people and foster educational and enlightening effects for brighter and vigorous life images.

研究分野：スポーツ社会学

キーワード：生涯スポーツ　マスターズスポーツ　スポーツイベント　スポーツプロモーション

１．研究開始当初の背景

人口の高齢化と中高齢期における人々の意識とライフスタイルの多様化と共に、中高年におけるスポーツ参加に対する志向とニーズも拡がりを見せている。かつて経験した「目標や記録に挑む」、「技を磨く」、「技を競う」、「緊張感や達成感を味わう」等の、スポーツの本質的な楽しみ方や目的を、中高年期においても本格的に実践する熟年スポーツ競技者が増加しており、その実践の重要な受け皿としてマスターズスポーツイベントが各地で開催され、現在、国内外で約 517 のスポーツ種目に及ぶ世界、複数国、全国、地域レベルの各種大会が確認されている。これらの大会では、主催者団体の組織化や大会プログラム開発、普及啓発キャンペーン事業を通じて、人生後期においても様々なスポーツ競技への機会を提供していこうとする、従来の中高年スポーツ振興の枠に捉われない推進活動が精力的に展開されている（神戸大学マスターズスポーツ振興支援室：マスターズスポーツイベントに関する国際調査、2010）。このような推進・普及活動が見られる一方で、マスターズ参加者は、体力とスポーツ技能に秀でた高齢者の特殊集団としてのイメージが先行し、マスターズスポーツ振興の社会的意義や価値への疑問や、社会的な認識や支援を得られえにくい声と実情が多くの関係者から報告されている（国際運動老年学会・マスターズスポーツシンポジウム 2008、国際スポーツ文化振興連盟会議 2011）。このような認識を変えていくため、海外では北欧米諸国を中心に、マスターズスポーツ大会の開催がもたらす効果として、出場する中高年者のエンパワーメント、充実感、生きがいづくり等の人生の活力化と活性化、家族、地域、世代等の交流促進、スポーツ・レジャー・観光産業の市場拡大と経済活性化、さらには、生涯スポーツを実践する中高年モデルとしての影響力や教育的意義に関心が注がれ、メディア等での情報発信の兆しが見られる。学術面においても、マスターズスポーツ参加者を対象とした生理学的研究やトレーニング論、参加者の動機や継続要因分析を中心とした心理学的な研究成果は見られるものの、社会学的・文化論的な視点から、マスターズスポーツ大会がどのような効果を生み出し、それらが生涯スポーツや地域スポーツの振興視点の中でどのような可能性をもつのかについて議論された研究知見は非常に乏しい。さらには、国内外でマスターズスポーツ大会の開催数が増加している傾向が明らかになっているものの、それらの大会内容や運営方法に関するマネジメント研究からの分析情報や、どのような効果を生み出しているかというイベント評価研究からの分析情報も限られている。この結果、「マスターズスポーツ大会がどのように開催され、どのような効果を生み出しているか」という基本情報が不足している。本研究では、世界的に拡大しているマスターズスポーツ大会の情報を網羅し、大会マネジメントと開催効果の実態を国際的視野から明らかにする。

２．研究の目的

本研究では、国内外で拡大している中高年スポーツ競技者を対象としたマスターズスポーツ大会に着目し、これまで収集された世界、複数国、全国、地域レベルの大会情報（合計 826 件）に関する資料分析と、それらの大会主催団体に対する調査を実施しながら、大会主催組織開発、プログラム開発、啓発キャンペーン事業に代表される大会マネジメントの実態を把握すると共に、それらのマネジメントによって、大会出場者や開催地域に対し、どのような便益をもたらしているのかについて開催効果分析を行う。これらの分析は、多くの開催国による大会マネジメントと開催効果の概念化と明確化に着目し、我が国のマスターズスポーツの視点から中高年スポーツ振興の可能性と将来ビジョンの提案を試みた。

３．研究の方法

本計画においては大きく２つの研究計画で構成される。１つ目は、国内外のマスターズスポーツ大会事例（全 826 ケース）を対象とした、各マスターズスポーツ大会のマネジメントと大会開催効果に関する資料の内容分析と質問紙調査であり、開催効果の評価データを有した先駆的大会については各大会の主催者に対する詳細なインタビュー調査を実施した。２つ目は、これらの各大会単位の分析から得られたデータにより国際的研究の視点から、類似性と相違性を明らかにし、特に我が国の大会の成果や今後の課題を検討した。

４．研究成果

マスターズスポーツ大会の開催種目のマネジメントについては、開催競技と男女・年齢カテゴリーのプログラムミックスが重要視されている。代表的な開催競技としては、陸上競技、バドミントン、バスケットボール、カヌー、サイクリング、ゴルフ、オリエンテーリング、ボート、射撃、サッカー、スカッシュ、水泳、テニス、トライアスロン、ウェイトリフティング、野球、ダイビング、フィールドホッケー、室内クリケット、柔道、ローンボウルズ、ネットボール、ラグビー、ライフセービング、ボーリング、タッチラグビー、バレーボール、ウォーターポロであり、これらの競技には最低年齢だけをクリアすれば、参加したいスポーツ競技に登録できるオープンイベント形式が主流であった。また、多くの参加者は自分自身を代表するものであり、ナショナルチームや団体、国からの公式的な代表選手は少なく、チームスポーツにおいては、１つの国から複数のチームの参加が可能であり、複数の国からの参加者が集ま

り多国籍チームを結成し参加することも認められている大会も存在した。

年齢カテゴリーは５歳もしくは 10 歳ごとであり、これらのカテゴリーは特別の規則がない場合には、男女ともに同様であった。男女別の年齢カテゴリーごとに金銀銅のメダルが各勝者に授与され、通常、競技参加者数に関わらず３位以内までメダルが授与される。多くの開催競技は、一般的には熟年スポーツとしては不適切と思われがちであるが、それらの開催実績は、各年齢層で熟年者が競技者としてスポーツを楽しみたいというニーズの存在を知らしめながら可能性を発信していくという意味で、イベント自体が強力な生涯スポーツプロモーション媒体の役割を担っていることが予測される。

競技場と宿泊施設のプレイスミックスとプライスミックスのマネジメントを分析したところ、すべての競技会場は、高基準からの競技環境を選手に提供することを目標としており、各競技の国際スポーツ連盟の規則に準じた水準が期待され、質的レベルに加え、多くの参加者数を受け入れることのできる量的レベルも大会準備で考慮されているケースが多い。また、競技場だけではなく、観戦・応援者用の座席、メディア施設、医療・救急処置施設、トイレ、更衣室とシャワー、飲料水提供、競技結果のサービス提供、駐車場、公共交通へのアクセス、緊急事態のサービス等が総合的に検討されている。できるだけこれらの施設とサービス環境が集約されていることが多種目開催大会には求められる傾向が示された。例えばメルボルンでの世界大会では、２９種目のスポーツが６２ヶ所の会場で実施されたが、３分の２の種目は大会センターから 20ｋｍ以内に設定された。これらの集約性が、選手が複数種目へ参加することを可能にし、選手や同伴者の交流を促進するための重要な要素となっていることが示された。交流を重視したセッティングは、メダル・プレゼンテーションも行われる競技別パーティーの開催や、クラブマスターズ（club masters）と言われる、会場近くに配備されたマスターズ選手専用レストランバーの配備にも見られ、参加者たちの憩いの場であると同時に、大会記録や自己タイムをチェックできる情報センターとして機能している。

多くのマスターズ大会では、複数の国から参加するため、ホテル、ユースホステル、モーテル、大学寮、キャンプ施設、ホームスティに及ぶ様々な宿泊施設を、競技参加者や同伴者、その他の大会関係者のために準備している。全国レベル以上の大会における参加料には、記念品グッズを主とする大会パッケージ、参加証、全競技会場のフリーパス、市内のレストラン・スポーツショップのディスカウントチケット、公共交通機関のフリーパスが含まれている、同伴者も参加者の約３分の２の金額を支払えば、参加証を含めた同伴者専用パッケージが提供されるケースも見られた。多くの世界大会では、海外、国内各州、自州の参加目標を設定し、国内外でのオフィシャル・トラベル・エイジェンシーと契約した上で、各地域からの宿泊・交通費を含めた安価な参加パッケージを工夫し、費用の利益と恩典をプロモートしている傾向が見られる。

参加者獲得のためのプロモーションミックスに関するマネジメント分析では、生涯スポーツの祭典という目標達成に対して直接的な成果指標となる大会参加者数の確保は最重要課題であることがうかがえた。これまでの組織的な取り組みとしては、１）国のスポーツ組織から世界の該当の競技種目組織への連絡と、大会参加を勧誘するための嘆願書の提出、２）国際スポーツ連盟の役員や技術代表者へのＰＲ活動、３）国内外の各スポーツ連盟に対する公式イベントカレンダーへの大会日の掲載、４）地元でのプレマスターズ大会の開催、等が挙げられる。メディアパートナーとしては、競技者や地域へのイベントの宣伝とスポンサーに付加価値を与えるためのテレビ、ラジオ、紙面での協力が主であり、高齢者がスポーツを行うこれまでの固定観念を逆手に注目を煽る「カウンターメッセージ」と呼ばれる情報戦略の効果性が認められた。また、全世界における主要なスポーツ・文化イベントカレンダーを作成し、各イベントとの協力を得た上で、イベント会場でのパンフレットの配布、ウエブサイトでの紹介、特定の出版物の配布等を通して、国際的な競技者や各スポーツ競技者、スポンサー、ボランティアの各ターゲットに合わせながら効果的なコミュニケーションメッセージが発信されている。

また、地域レベルの大会を含め、多くの大会では、費用的に効果的なコミュニケーションのツール、例えば、パンフレットやニュースレター、ウエブサイト、E メールによるニュースレターなどを主に活用し、まずは第１段階として前大会のトピック・情報を大会への理解度とユニークさを伝えるために準備始動期に発信し、第２段階では、自国の大会準備を進めていく中で、登録参加選手のトピックに関するニュースリリースが効果的に行われていた。マスターズスポーツ大会に対するメディアの関心は低いが、過去の大会に参加した人々のストーリーをテレビの「バイオグラフィー」でアピールし、同時に、「Never too late（遅すぎることはない）」、「Challenge Never Ends（チャレンジは終わらない）」等のメッセージをすり合わせた、啓発キャンペーンを大会組織委員会を中心に精力的に行ったことがオーストラリアやニュージーランドの大会運営で高く評価されている。これらの大会組織委員会ではこのメッセージの到達性に関する効果測定を大会後に実施しており、大会参加者の約３分の２が、これらのメッセージに対する記憶、関心、注目、と

いう行動を誘発するための心理学的条件に作用し、口コミによるソーシャルサポートやコンパニオンシップ（同伴性）の人的交流も伴って大会参加の動機付けとなったことを報告している。

大会の経済的効果と文化的効果をインタビュー調査や資料分析に基づいて行ったところ、選手とその同伴者・家族・友人が長期間ホスト国に滞在することによる観光経済効果は共通して見られた。Ernst & Young 社によるブリスベンでの国際大会開催による経済効果の分析によると、クイーンズランド州（約５０億円)、クイーンズランド州を除くオーストラリア全体（約５００億円)、州政府に約２億円、所得税収入約５億円の経済効果をもたらし、イベント開催によるスタッフ採用によって 1160 年に及ぶ州内の雇用創出と、州を除く国内全体で計 292 年間の雇用を創出したと推計している。今後、熟年者のスポーツへのニーズの拡大に加え、ツーリズム志向の高まりによって、国際スポーツツーリズム体験を提供するマスターズスポーツイベントの経済効果には益々関心が高まっていくものと思われる。

マスターズスポーツイベントの発展はこのような経済的効果だけではなく、文化的効果も期待できる。国内外で開催されているマスターズスポーツ関連イベントを、「国際レベル」、「複数国レベル」、「全国レベル」、「地域レベル」からなる４つの開催規模レベル、さらに、複数の競技種目が１つの大会で行われる「複数種目開催型」および１つの競技種目だけを行う「単種目開催型」からなる２つの大会タイプも合わせてレビューすると、１）歩行・走力・サイクリング系（例：散歩，陸上競技，トライアスロン)、２）体操・ダンス・トレーニング系（例：体操競技，ウェイトリフティング，トランポリン)、３）水泳系（例：水泳，ダイビング，水球)、４）球技・チームスポーツ系（例：ラグビー，バスケットボール，サッカー)、５）アウトドアスポーツ系（例：オリエンテーリング，クレー射撃，グライダー)、６）ウォーター・マリンスポーツ系（例：レガッタ，ヨット，サーフィン)、７）ウィンタースポーツ系（例：アルペンスキー，カーリング，フィギアスケート)、８）武道・武術系（例：柔道，フェンシング，レスリング)、９）ゲームスポーツ系（例：ダーツ，スヌーカー，ペタンク）の９分野、計 123 種目に及ぶ国内外のマスターズスポーツイベントが存在する。一般的に熟年層を対象としたマスターズスポーツ競技種目の幅はユーススポーツと比較し、狭く限定的に考えられている傾向が強かった。しかし、マスターズスポーツが行われている競技種目の範囲は広く、この各種目のマスターズスポーツ文化の拡がりと浸透が進んでいく中で、エイジングとスポーツに対するこれまでのステレオタイプ（固定観念）が改善され、生涯スポーツ文化全体の発展に繋がっていくことが期待されよう。

各イベントで展開されているこれらの事業を内容分析に基づいて概念化した結果、主体者、人、機会、環境の各条件の改善に関わる推進プログラムに大きく類型化された。効果的な大会事業に見られる傾向としては、大会計画策定において事業企画に偏りがなく、これらの事業がパッケージ化されている特徴が見られた。大会への参加促進のためには、その活動を行う主体者自身の条件と、それを取り巻く大会に関わる人、機会、環境の諸条件の設定が必要となるため、大会事業の計画についてもこれらの条件改善に見合う総合事業戦略が求められる。特に分析で明らかになった効果的な事業展開については、主体者の内的条件（動因）に直接作用する事業と、外的条件（誘因）を高めていく事業を両軸とし、前者は活動主体者の大会参加を押す意味のプッシュ事業、後者は参加者を引き寄せる意味でのプル事業と総称され、セット事業として捉えられている。いつつかの大会事例に見られた非効果的な事業の特徴である“数打てば当たる”の「乱射型」や、１つの戦略のみに偏る「こだわり型」の事業ではなく、予め設定した大会参加の動機目標を重視し、既存事業の継続・修正・補充、あるいは新規事業の導入をしていくことが効果的な大会を開催することが重要であることが示唆された。

大会プロモーション事業では、「事業」→「条件」→「行動」→「便益」の４概念からなる計画段階の重要性が強調され、事業が行動に影響を及ぼす「事業」→「活動」といった短絡的な図式ではなく、事業と行動の間に介在する行動要因（条件）を明確にした上で、その条件変化を目標とした事業開発を行うことが、スポーツ大会参加という比較的生起しにくい行動を促がすためには重要となることが明らかとなった。この計画作成の段階で良いシナリオを描くことが重要であり、事業実施後において、事業開始→参加条件の改善→大会参加→大会便益の向上という一連のドミノ効果は起こらず、プロモーション事業は失敗に終わる危険性が高い。事業評価を実施した大会情報の中で事業成果が観察されなったケースを分析すると、代表的な例は、事業→行動の間のミスマッチに集中している傾向が見られる。最も多いパターンは「不十分な条件目標の設定」であり、たとえ多くの事業を実施していても、対象者の大会参加にとって重要な個人的、人的、機会的、環境的条件が見過ごされていたり、あるいは過小評価されていたために、大会参加を生起させるような影響を及ぼす条件改善にはならなかった仮説エラーとして表される。この他には、１）大会参加条件の目標を設定しながらも対象者には関連性のない目標設定によるケース、２）時間、労力、能力、財政面などの不足により十分な大会推進事業を実行できなかったケース、３）大会参加条件設定は

適切であったが、その条件を改善するための推進事業を開発できなかったケースが多い。これらの原因を把握するためには、開催地域でのターゲットとなった住民に対する大会認知度や参加便益を評価してもらう住民に対する住民評価調査と、事業を開発し提供している当事者から事業展開の阻害要因を調べる事業者評価調査の実施が求められる。マスターズスポーツへの参加活動は生起しにくいライフスタイルであるため、それが開始・継続されるためには様々な行動条件を必要とするが、対象となる集団や地域独自の課題条件を事前に認知し、計画内容の「ずれ」を無くしておくことが重要となる。これらの対象者評価調査と事業者評価調査から得られる情報は、その「ずれ」がどこで生じたのかを浮き彫りにする有効なデータとなり、対象地域で留意しなければならない独自の課題と今後の可能性を示す最も貴重なフィードバック情報となる。

マスターズスポーツ大会のマネジメントにおけるプロモーション事業に関しては、今後ますます各大会の事業策定能力が問われる。イベントガイドラインを義務的に施行したり、他の大会が行っている事業をただ単に適用するのではなく、対象者が大会参加によってどのように活性化したかという明確なビジョンを設定し、そのためにはどのような大会参加条件の整備と改善が必要なのかをその大会に応じて的確に判断し、それらの条件改善を可能にするための開催地資源や潜在性を投入し独自の事業を設定していくシナリオ作成力がわが国ではより一層求められる。

これまでの効果的な大会マネジメントによるマスターズスポーツ大会は様々な恩恵を主催地や主催国に残してきた。マスターズスポーツ大会による便益は、「個人」、「交流」、「経済」、「文化」、「未来」の主要側面が挙げらる。生きがいやアクテイブエイジング等の個人レベルにおける「人生」の活性化を中心に、対人交流、地域交流、国際交流、あるいはマスターズスポーツに特徴的な世代間交流を含めたコミュニケーションと相互理解の活性化、また、観光・スポーツ産業に代表される経済活性化が認められた。また、マスターズスポーツ大会は、成熟した生涯スポーツ文化のシンボルであるが故に、大会の開催が起爆剤となり、生涯スポーツやスポーツツーリズムの文化振興を加速化させる。さらには躍動する中高年アスリートの姿が、これまでのネガティブな加齢観や高齢者像のステレオタイプや偏見を払拭し、明るく活力に満ちた人生観を育むための未来に向けた教育的・啓発的効果を生み出していくことも複数の大会で実証されている。わが国では高齢化が最も進展しているが、マスターズスポーツ大会が教育的・啓発的な目標で実施されているケースはごく僅かであり、その便益を生み出すための大会マネジメントと事業立案が強く求められる結果となった。

大会マネジメントと便益との関係性を総合的に分析した結果、大会開催計画の最終目標を大会参加で終着させるのではなく、大会参加がもたらす個人的・社会的効果を考慮し、それらを便益目標として大会計画の段階で設定していることが一致して見られる。マスターズスポーツ参加によって期待される個人的・社会的効果は多くの中高年スポーツ参加による便益研究によって立証されてきており、大会計画においては開催によって生み出されるこれらの予想便益を用いた大会便益目標を設定し、その目標を達成するための開催努力が行われている。大会便益目標の設定は、大会計画を策定する必要性と大会を開催することの社会的意義を与え、継続に向けての妥当性を持つことによって多方面からの理解と協力による大会基盤の形成に寄与する。同時に、大会計画にどのような効果が見込めるのか、どのような効果を生み出したいのかという最終ゴールとビジョンが明確となり、計画作成側にとっては、この段階の共有ビジョンが大会計画策定の始動の際の直接的な原動力となり、計画を実践しさらに多くの事業を展開する上での基本的な推進力となる。高齢化が急速に進展するわが国では、マスターズスポーツ大会の開催便益が高齢化に伴う個人や社会が直面する様々な課題解決に繋がるシナリオを大会開催計画で盛り込むことが重要であり、それらへの成果情報を発信していく主催者側の努力が求められる。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）

①長ヶ原　誠、関西ワールドマスターズゲームズ 2021 の可能性、経済人、査読無、808 号、2015、5

②長ヶ原　誠、アクティブエイジングを実現するスポーツの可能性、みんなのスポーツ、査読無、2014、12-14

〔学会発表〕（計２件）

① Makoto Chogahara, Hosting the World-class Sports Mega-events in Japan: What will be Generated?, 9th German-Japanese Symposium of Sport Science, 2014.9.18, 慶応大学（東京都）

② Makoto Chogahara, The Development of Quality of Sport for Life (QOSL) Index for Assessing the Multidimensional Physical Activity Involvement in Japanese Older Adults, The 20th IAGG World Congress Gerontology and Geriatrics, 2013.6, ソウル（韓国）

〔図書〕（計１件）
①長ヶ原　誠、山羽　教文、杏林書院、健康スポーツ学概論 ―プロモーション、ジェロントロジー、コーチング―、2013.6
「身体活動プロモーション概論」pp.44-54
「スポーツプロモーション概論」　pp.87-98
「スポーツジェロンロトジー概論」pp.197-205

６．研究組織
(1)研究代表者
長ヶ原　誠（Chogahara, Makoto）
神戸大学・大学院人間発達環境学研究科・教授
研究者番号：00227349

(2)研究分担者
石澤　伸弘（Ishizawa, Nubuhiro）
北海道教育大学教育学部・准教授
研究者番号： 60368553